

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターとさっちくらぶ（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	部屋や人数配置、環境調整により学習・遊び・運動の場を確保している。	自由時間も含めて安全・快適に過ごせるよう部屋や活動を工夫している。	保護者への情報発信方法を多様化し、記録や連絡の仕組みを強化する。
2	絵カードやタイマーなどを用い、子どもの特性に応じた多職種支援を行っている。	面談やLINEなどで保護者と随時情報共有し、意向を反映して支援している。	学校等の教育機関や他の機関と見学機会を設けたり、支援の共有の場を増やす。
3	保護者への面談・報告や専門職交流により、子ども・家庭のニーズに対応している。	個別の特性や困りごとに応じた支援・助言・検査を行っている。	学童・地域・専門職との交流や保護者同士の場を活用し、支援の幅を広げる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者が子どもの様子や支援内容を毎回十分に把握できていないことがある。	口頭や帰りの報告が中心で、記録や連絡帳での体系的な情報共有が十分ではない。	日々の報告や支援の内容等について定期的な面談の機会等を確保します。
2	保護者への情報発信や周知の積極性にばらつきがある。	SNSやチラシによる情報提供はあるが、保護者全体への周知や参加促進が十分ではない。	情報発信方法の多様化や周知の計画化により、保護者への理解・参加を促す。
3	子どもの学童・地域での様子の確認機会が限定的である。	学童や地域、保護者同士の交流機会の計画化が限定的で、成長確認やフィードバックの機会が不足している。	保護者同士の交流やピアサポートの場を設け、家庭での支援にも活かす。